

本年度からの体制と第31回支部大会

支部長 大森裕實
(愛知県立大学)

平成 27 (2015)年度も新緑の季節を迎え、桜の淡い色合いから躑躅の鮮明な色調へと、目に映る景色の移ろいを実感するこの頃ですが、会員の皆様には、研究と教育に邁進されていることと存じます。

さて、季節の変化同様に、JACET 中部支部においても、2015 年度から新たな執行部体制で支部を運営していくことになりました——大森支部

長(『定款』に基づく正式就任は2015年6月)、鈴木副支部長、佐藤事務局幹事、今井会計担当幹事が4役を務めます。前段に倣って、前執行部を優しい桜之園だとすれば、新執行部は(男性ばかりの)地道だが実直に励む躑躅館を構えることができたと思っています。その真価は、今後の実際の諸活動を通して、問われることになると思いますが、躑躅の花言葉が「節度」であるように、執行部及び役員会はあくまでも黒衣であり、学会活動の表舞台で会員諸氏が自由闊達に躍ることのできる、いっそうの環境整備と意識形成が求められていると感じています。ご存じのように、JACET 中部支部も他支部同様に、少しずつ会員数が減少しています。若手教員の方々が日々の教育活動に追われて、以前のように、週末の学会活動に容易に参加できない労働環境が年を追うごとに厳しさを増していることに対して、過去5年にわたり副支部長兼理事を務めた者としては鋭敏にならざるを得ません。何とか無理をしてでも参加したいと思っていただけのような、魅力のある支部大会、春季・秋季定例研究会、講演会を企画・実施していくつもりです。会員の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。これからの2年間で、中部支部会員数300人を回復したいと思います。

ところで、JACET は一般社団法人化してはじめて『定款』に基づく社員選挙を行ない、中部支部からは9名の議決権をもつ社員(かつての評議員相当)が選出されました。本部で開催される社員総会にしっかり出席して、そこでJACETの進む方向性について判断を下すことのできる逸材が選ば

目次

支部長挨拶および支部大会について 大森裕實	1頁
第2回JACET英語教育セミナー 大森裕實	2頁
講演会報告 高橋正人氏「大学英語教育、科学技術英語及び 科学技術・イノベーション政策」 馬場景子	4頁
研究会報告1 最新言語理論に基づく応用英語文法研究会 今井隆夫	4頁
研究会報告2 ライティング研究会 佐藤雄大	5頁
会員著書紹介 「対話を用いた英語ライティング指導法」 木村友保	6頁
追悼記事 丹下省吾君逝く 池 稔	7頁
掲示板	8頁
事務局より	8頁

JACET 第2回(2014年度) 英語教育セミナー報告

担当理事 大森裕實
(愛知県立大学)

れたはずで、中部支部会員の皆様の声は、その9名が正面から受けとめ、支部役員会で検討したうえで、社員総会に届けることができます。社員総会における社員の発言内容は、理事会も無視することはできません。こうした、代議制による民主的な学会運営が JACET において根づいたことは同慶の至りであると同時に、社員が中核を占める支部役員会の責務も一段と重いものになりました。

最後に、本年度開催する JACET 中部支部大会への誘いで、この挨拶を締め括りたいと思います。第31回 JACET 中部支部大会は、愛知県教育委員会及び名古屋市教育委員会の後援を得て、2015年6月20日(土)に南山大学(名古屋キャンパス)で開催します。今回のテーマは「豊かなコミュニケーション力を育む『ことば』の力」です。特別講演は、この3月まで東京大学でグローバルコミュニケーションセンター長を務められた高田康成氏(名古屋外国語大学教授)にお願いしました。また、大会テーマに即したシンポジウムでは、袖川裕美氏(プロ通訳)、池田年穂氏(慶應義塾大学名誉教授)、豊田昌倫氏(京都大学名誉教授)を迎え、社会で求められる英語力と大学で涵養する英語力とのインターフェイスについて討論します。もちろん、例年どおり、会員諸氏による研究発表や、テキスト出版数社による展示も期待できます。新執行部及び新役員会が企画・準備した、いわば「船出を祝い、これからを占う」第31回支部大会にぜひご参加ください。

大学英語教育学会(JACET)が毎年3月に開催してきた春季セミナーは、2013年度から新たに「英語教育セミナー」としてリニューアルされ、年度ごとに担当支部持ち回り開催形式を採ることになった。第1回(2013年度)英語教育セミナーは、関東支部担当で、早稲田大学を会場に開催されたことは記憶に新しい(2013.11.3)。それに続く第2回(2014年度)英語教育セミナーは、中部支部が担当し、支部役員(企画と会場の関係から、北尾委員と山添委員が加わった)全員体制によるセミナー委員会を立ち上げ、委員長は大石支部長が務めた。もっとも、わずか2年前に第51回国際大会(2012)を愛知県立大学で開催したばかりの中部支部が、本部事業でありながら、事業予算を伴わない全会員対象の大規模セミナーを企画・実施する力があるかどうか懐疑的であった私は、校務のため欠席した本部理事会で大石さんが簡単に引き受けてしまったことに悔悟の念を抱いたが、この本部事業は待ったなしで、準備期間は1年足らずで迫ってきたのである。

第2回英語教育セミナーは、テーマを「小中高大連携の現状と課題」に定め、5教育委員会(愛知県、名古屋市、岐阜県、岐阜市、三重県)の後

南雲堂の英語テキスト

多読とライティングの『総合時事英語テキスト』で放送英語の捉え方をマスター!

木村友保 / 佐藤雄大 / 浅井恭子編著

Better Reading, Better Writing with NHK WORLD NEWS 『NHKワールド・ニュースで学ぶ 日本と世界の姿』

▶ B5判・本体 2,000円・全 28章・Review Test 有

視覚から理解する英文法! サブテキストにも最適!!

異文化総合: 海外で学ぶ、働く、異文化を理解する

English Grammar 『ビジュアル英文法』黒川裕一著

Let's Get Out of Japan! 『英語で世界に橋を架けよう』

▶ B5判・本体 1,200円・全 20章・各章 2頁・本文/TM 2色

川村義治 / Gavin Lynch 著 ▶ B5判・本体 1,900円・全 15章

資格: 基礎から始める TOEFL iBT® 対策の決定版

世界の不思議な法律から比較文化理解を深める総合英語

TOEFL iBT® Basics 津田晶子・Chris Valvona・金志佳代子・岩本弓子編著

Funny Laws in the World 『世界おもしろ比較文化』

『TOEFL iBT® テストスキル入門』▶ B5判・本体 1,900円・全 15章

石井隆之・岩田雅彦・梶山宗克・Joe Cluncl 著 ▶ B5判・本体 1,700円・付録有

審査用見本のご請求は、お電話、
メールでも承っております。

NANUN-DO

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 361 TEL:03-3268-2311 / FAX:03-3269-2486

E-mail: nanundo@post.email.ne.jp / URL: http://www.nanun-do.co.jp

援を取りつけ、2014年12月6日(土)午前10時から午後6時の日程で、JR名古屋駅から近い愛知大学(名古屋校舎)において無事開催された。折悪しく、その冬一番の寒波が名古屋地域を襲い、雪が散らつく天候にもかかわらず、総勢90名の参加者を迎え、本セミナーの熱気が会場を包み込むものとなった。

本セミナーの構成は、「基調講演」「3本立て《活かす》講座」「パネルディスカッション」「ワークショップ」「教材展示」である。各パートの概要について簡単に記述すると、次のようになる。

基調講演——前 JACET 副会長の岡田伸夫氏(関西外国語大学教授)による「教育における縦と横の連携—英語教育の連携を中心に」/講座 I ——英検(塩崎修健氏)、国際ビジネスコミュニケーション[TOEIC](三橋峰夫氏)、ベネッセ(小田桐一弘氏)の3社による「英語資格(検定)試験を活かす」/講座 II ——磐崎弘貞氏(筑波大学教授)による「学習英英辞典を活かす—エラーから見る高頻度語義バイアスと文脈の収束性」/講座 III ——賛助会員5社(三修社、金星堂、ピアソン、チエル、NEC)による「出版社教材を活かす」/パネルディスカッション——山下敦子氏(岐阜市立鷯小学校教頭)、熊谷紀孝氏(愛知県立田口高等学校教諭)、太田光春氏(文部科学省視学官)、宮浦国江氏(愛知県立大学教養教育センター長)、Moderator 大森裕實(JACET 理事)による「小中高大連携を基盤としたグローバル人材育成に寄与する大学英語教育の展望」/ワークショップ—

—HoyaとPanasonicによるCALL & ICTの実演/教材展示——上掲の10社に、英宝社、南雲堂、Oxford U. P. [Cambridge U. P.は急遽キャンセル]を加えた賛助会員13社による紙媒体・電子媒体教材の展示。

而して、英語教育における小中高大連携の実態を正確に把握することのできる充実した内容を展開し、「グローバル人材育成に重要な役割を担う大学英語教育の改善と発展に寄与する」と定めた本セミナー事業の目的は十分に達成できたと言ってよい。しかし、本セミナー実施に際して、中部支部役員諸氏の献身的努力がなければ、また、賛助会員の協力がなければ、これは到底不可能であつたに違いない。加えて、本部事務局の支援もまことに有難かつたが、何よりも、師走のセミナー会場手配に苦慮した時に、こころよく救いの手を差し延べてくれた愛知大学の関係者——特に、塚本倫久氏(国際コミュニケーション学部長)に謝意を表したい。

なお、JACET 本部ウェブ JACET News, No. 193(英語版 March 2015)にも、本セミナーのもう少し詳しいレポートが掲載されているので、ご高覧いただければ幸いです。

成美堂 2015年 新刊案内	
Basic Faster Reading -New Edition - 総合教材・速読.....1,900 円(税別)	Exploring World Heritage on DVD II DVD 教材・世界遺産.....2,400 円(税別)
Science Wisdom 総合教材・科学.....1,900 円(税別)	Career Design on DVD DVD 教材・キャリア.....2,400 円(税別)
English Locomotion 総合教材・リメテ ^イ アル.....2,000 円(税別)	Meet the World -English through Newspapers- 2015 時事英語.....2,000 円(税別)
Grammar Made Easy 英文法・リメテ ^イ アル.....1,900 円(税別)	Reading the New York Times 2 時事英語.....2,100 円(税別)
Best Practice for the TOEIC® Test TOEIC®・総合教材.....2,200 円(税別)	Searching the Future, Reviewing the Past リーディング・社会問題.....1,900 円(税別)
Target on Business and the TOEIC® Test Vocabulary ビジネス英単語集・リカ ^ホ ル.....1,700 円(税別)	
English with Pop Hits 総合教材・ソング.....2,200 円(税別)	
CBS NewsBreak 2 DVD 教材・ニュース.....2,400 円(税別)	
株式会社 成美堂 SEIBIDO	
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22	
TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490	
URL: http://www.seibido.co.jp / e-mail: seibido@seibido.co.jp	

講演会報告

「大学英語教育、科学技術英語及び科学技術・イノベーション政策」

高橋正人
(情報通信研究機構)

2015年2月28日
(於 名古屋工業大学)

JACET 中部支部 2014 年度春季定例研究会が 2015 年 2 月 28 日に行われた。数件の研究発表が行われたのち、基調講演が行われた。講演者、高橋正人氏(独立行政法人 情報通信機構 経営企画部 企画戦略室プランニングマネージャー)による「大学英語教育、科学技術英語及び科学技術・イノベーション政策」の講演が行われた。このタイトルが示すように広範囲に及ぶ内容を、演者により長時間にわたり講演して頂いた。

高橋正人氏は、JACET の講演としては、異彩な分野である情報通信分野を専門とされ、研究及び国家戦略を実際に手掛けている。高橋氏は、東京大学理学系大学院修士課程修了後、郵政省入省以後の研究の一つとして、郵政省通信総合研究所鹿島宇宙通信研究センター宇宙通信技術研究室主任研究官等として主に衛星通信・衛星測位の研究に従事され、現在、(改組・組織名称変更後)総務省所管独立行政法人 情報通信機構で重要な役割を担っている。さらに、高橋氏が所持する英語関係資格は、英検 1 級、英語通訳案内士(免許取得)、国連英検 A 級、工業英検 1 級、Technical English Proficiency Test 1 級など、知財に関しては、ご自身で書かれた英文明細書等による 20 件以上の出願は全て米英独仏豪日の各国で特許に合格しているという。まさに十分な才能を発揮されている。

当日の講演内容は、はじめに高橋氏のご自身の英語習得と英語体験を話された。その後、氏が現在直接関係されている安倍政権の所信表明演

説に盛り込まれた公約の1つの「イノベーション25」に言及された。それは、2025 年までを視野に入れた成長に貢献するイノベーションの創造のための長期的戦略指針ということだった。

因みに「イノベーション25」は、「未来に向けての高い目標設定と挑戦」、「グローバル化と情報化の進展への的確な対応」、「生活者の視点」、「多様性を備えた変化と可能性に富む社会への変革」そして「出る杭を伸ばす等人材育成が最重要」を基本的な考え方とする。私たち英語教員は、日本のこの新たな改革に対応できる優秀で柔軟な人材を育成する責任を再考する好機を、高橋氏の講演で得ることが出来たと実感している。

高橋氏には、多忙にもかかわらず講演して頂いたことに深謝いたします。また、公益社団法人日本工業英語協会『工業英語ジャーナル』に連載中の「科学技術政策と科学技術英語」をご通読頂ければ、高橋氏の講演内容が更に深くご理解頂けるはずである。

馬場景子(中部大学[非])

研究会紹介1

最新言語理論に基づく応用英語文法研究会

「最新言語理論に基づく応用英語文法研究会 (Applied English Grammar based on the Latest Linguistic Theories)」は、平成 22 (2010) 年 9 月の理事会で設立承認を受け、同年 12 月から本格的に始動した研究会である。本研究会では、機能主義言語学、認知言語学、語彙意味論、生成文法理論、コーパス言語学などの知見を英語の学習・教育に応用できるように加工し、従来の学習英文法では一面的にとらえがちであった文法現象や構文に対して、多面的アプローチによりその説明と導入を試みることを主目的とする。それを実現し、応用する分野として、大学英語教育における英語教員養成にも着目し、教職課程履

修生が実際に英語を教える状況において、その支柱となる英語力の涵養を支援する学習英文法を開発することを視野に含めて、研究会活動に取り組んでいる。

平成 26 (2014)年度の特記事項としては、平成 25 (2013)年度から 3 年間計画で、本研究会活動及び構成員を中核とする科学研究費助成による研究「研究課題名: 教職課程(英語)受講生のための言語知識教育プログラムの体系的構築」(課題番号 25370738)が採択され、研究会の活動が活性化かつ本格化したことが挙げられる。その研究成果報告の一環として、同年度に開催された JACET 第 53 回国際大会(広島市立大学、2014 年 8 月 28 日)において、「言語理論の学問知を生かした英語教育—English Education Activated by New Grammatical Knowledge and Linguistic Insights」というテーマでシンポジウムを実施した。また、これが機縁となって、他支部に所属する高坂京子(立命館大学教授)も研究会に参加してくれることになり、研究会活動の輪が広がった。

平成 27 (2015)年度も継続して研究テーマを攻究し、JACET 第 54 回国際大会(鹿児島大学、2015 年 8 月 28 日-30 日)において、「大学言語教育観に適應する多元的学習英文法の新展開——New Perspectives on Development of an English Grammar for Learning in the Advanced Language Education」というシンポジウムを実行することが確定し、当該シンポジウムに向けての検討

及び準備を精力的に行なう。加えて、研究会員のゼミ生も参加するなど、研究会活動の縦のつながり(裾野の拡大)も考えていく。

本研究会テーマに関連する研究会員(大森・都築・奉・北尾・高橋・今井)による最近の編著書には、『学校文法の語らなかつた英語構文』(勁草書房)、『リーディングとライティングの理論と実践』(大修館書店)、『イメージで捉える感覚英文法』(開拓社)、『ことばとコミュニケーションのフォーラム』(開拓社)、『英国王のスピーチ』(スクリーンプレイ)、『生成文法の軌跡と展望』(金星堂)、『現代社会と英語』(金星堂)、『ことばを考える(7)』(あるむ)、『認知言語学論考(12)』(ひつじ書房)、『応用英語音声学研究』(中部応用言語学研究会)等があるので参照されたい。

今井隆夫(副代表)

研究会紹介②

ライティング研究会

JACET ライティング研究会は 2012 年 4 月～2015 年 3 月まで科学研究費補助の支援を受けながら日本の大学にライティングセンターを導入するための研究を行ってきた(研究代表: 木村友保、基盤(C)、課題番号 24520717、「日本人のための英語ライティングセンター構築の可能性とその実現計画」)。ライティングセンターとは、大学生



Global Activator Your English, My English, World Englishes!
Tadashi Shiozawa
Gregory A. King

Global Activator Your English, My English, World Englishes!
大学生のためのグローバル時代の英会話

「世界の英語」で体感する、グローバル時代のリアルな英会話

ネイティブスピーカーに加えノンネイティブスピーカーのバラエティに富んだ英語を取り入れました。世界の大学生たちの楽しくテンポのよい会話を軸に、リーディングやディスカッションなど多彩なアクティビティを用意しました。

塩澤正 / Gregory A. King 著
本体価格 ¥2,000 ISBN978-4-7647-4003-7

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-21
TEL. 03-3263-3828 FAX 03-3263-0716
e-mail: text@kinsei-do.co.jp URL: http://www.kinsei-do.co.jp



の様々なライティング活動をサポートする大学附属の機関で、1980年代以降米国の大学に設置されていき、現在北米の大学では一般的な組織として根付いている支援機関を指す。本研究会は、外国語としての英語ライティングを対象としたライティングセンターが日本の大学でも数校設置されてきた動向を受けて、日本の大学に設置するのに適切なライティングセンターの条件はどのようなものなのかということを対象として研究を開始した。

私たちは最初に日本の大学に設置されていたライティングセンターを訪問し、直接ライティングセンター長にお話を伺うことで設置の経緯、役割、現状、大学内での位置づけなどを調査することからはじめた。大阪女学院大学、東京大学、上智大学、政策研究大学院大学、津田塾大学、早稲田大学、国際教養大学の7校を訪問し、お話を伺ったが、どのセンター長もライティングセンターに学生が訪問し、チューターとともに作品の書き直しをすることを通じて学生が書き手として成長することを一番の目標にしていることが共通していることを知り、ライティングセンターが担っている役割を認識することができた。この研究期間に国際学会の Second Language Writing や International Writing Center Association にも参加し、米国、中国の大学ライティングセンター関係者とも交流したが、彼らのセンター活動の理念も日本のものと同じであった。

私たちの3年間の研究成果やライティングセンター設置に関する提案は研究報告書『日本人のための英語ライティングセンター構築の可能性とその実現計画』(2015年3月発行)にまとめたので、詳しい内容はそちらに譲りたい。最新の動向としては研究開始初年度に訪問した東京大学駒場キャンパスのライティングセンター(駒場ライターズスタジオ)で、当時予定されていた文系学生への指導(それまでは理系学生のみを対象としたライティングセンターだった)は2015年2月に再訪問した際、すでに始められており、理系学生のラ

イティング指導とは違った面白さ、難しさがあるということを知ることができた。駒場キャンパスではさらに日本語を対象としたライティング指導もこれから行う予定ということだった。

佐藤雄大(名古屋外国語大学)

会員著書紹介

佐藤雄大 著

『対話を用いた英語ライティング指導法
ーダイアログ・ジャーナル・ライティングで学習者をサポートできることー』



溪水社 2015年
4,400円

本書は、現在 JACET 中部支部の事務局幹事を務めている名古屋外国語大学准教授の佐藤雄大氏が名古屋大学大学院国際開発研究科に博士論文として提出し、2012年3月に受理された論文「ライティング・プロダクト分析を中心としたダイアログ・ジャーナル・ライティング研究」を基にしたものである。

英語ライティング指導ではよく「プロセス・アプローチ」という言葉が使われるが、学習者が書く英文は最終的なプロダクトであるというよりは、発展途上にある文章であるという認識を前提としている。その発展途上の過程に注目し、学習者のライティング・プロセスでどのように書く英文が変化するの

か、量的分析をし、考察したものが本研究である。

佐藤氏がこの研究で理論的基盤としたものは、氏が、常に参照し、インスピレーションを得てきた旧ソ連の Lev Vygotsky の著作で、そこに一貫して流れるのは「学習者をどのように考えるか」という人間観である。彼は、学習者を「今日どれだけできるか」という到達度に着目し、学習者を固定するように考えるのではなく、「明日どのように変化するか」という眼差しで見た。氏も Vygotsky 同様、学習者が明日思いもよらないような成長をする可能性を考え、この研究に取り組んだ。

本書では、プロセス・アプローチが生まれた背景・理論から入り、その代表的なライティング実践である「ダイアログ・ジャーナル・ライティング」(DJW)を取り上げ、習熟度の異なる大学生に対して三カ月にわたり実践し、学習者が書いた英文の量的変化に迫った。また同時に同じ習熟度、期間、頻度で、自由英作文(FW)を実施し、DJWと比較する対象を設けることで、よりこのライティング・プロセスに教員が介入することによる学習者ライティングの変化を明確にするようにした。本書で取り扱われている量的変化は平均語数、節の長さ、T-unit、異なり語の割合などと質問紙調査に基づいた学習者の有能感・意欲の変化のみである。そして、本書では DJW がライティングの平均語数を大きく向上させ、語彙の多様性を向上させ、徐々にではあるが、テキストの結束性も向上させ、そして学習者に有能感を与えたという結論を出した。

佐藤氏は、「あとがき」で筆者のことを「日本における DJW 研究の先駆け」と評価した。筆者も、佐藤氏を同じ研究分野の「同士」とであると認識している。ただし、本書は筆者もまだつかめていない疑問点までは踏み出していない。確かに DJW は学習者に英語でも書く楽しみを与え、継続させるが、その継続は他のタイプのライティング、すなわちテーマを決め、調査し、分析し、考察し、まとめるタイプのライティングへ必ずしもシフトできないのではないかという疑問である。筆者の DJW 参加

者の中に、その後医学部に進学した学生がいるが、その学生はこのタイプのライティングは「嫌い」と明言した。他のタイプのライティングへどう応用できるかが本書の次の課題かもしれない。

木村友保(名古屋外国語大学)

追悼記事

丹下省吾君逝く

池 稔

丹下君が逝ってしまうとは考えもしなかった。驚き、そして悲しかった。旧制の岡崎高等師範学校の第一期英語科 28 名の中に丹下は静かに、しかも首席としての座でクラスをリードし続けた。

あれ以来、何年経ったか。無口だが、必要なことはずばりと言って退ける度胸は天性であったのかもしれない。

岡崎のわが家へ、英友会と称する高師英語科(第二回生で、学制改革のため消滅)の幹事会に来てくれた丹下は、目の前で大きくよろめき、そしてつまずいた。目の手術をしたのだという。それでも単身で岡崎まで来てくれた彼に心から礼を言った。

あれから 2 年、丹下の姿はもうない。

大学英語教育学会の支えの一人が消えていった。

ひとがらの温かみだけを残して...

2015 年 2 月

掲示板

『JACET中部支部紀要』第13号に掲載用の原稿(学術論文、研究ノート、実践報告、書評を募集します。奮ってご応募ください。

締切: 2015年9月10日

刊行予定:2015年12月

掲載料: 刷り上がり1ページにつき1000円の負担

長さ: 論文15ページ、実践報告・研究ノート10ページ、書評5ページ程度

問合せ: JACET 中部支部事務局

投稿規程など詳細は、ホームページや紀要最終ページでご確認下さい。

中部支部紀要編集委員会

事務局より

◆2015年度中部支部役員のご紹介

顧問 田中春美(南山大学名誉教授)

理事 大森裕實(愛知県立大学)

鈴木達也(南山大学)

支部長 大森裕實

副支部長 鈴木達也

事務局幹事 佐藤雄大(名古屋外国語大学)

幹事(支部会計担当)

今井隆夫(愛知教育大学[非])

研究企画委員 (22名)

石川有香(名古屋工業大学)、伊東田恵(豊田工業大学)、今井隆夫、岩城奈巳(名古屋大学)、榎木蘭鉄也(中京大学)、大石晴美(岐阜聖徳大学)、大森裕實、岡戸浩子(名城大学)、片岡邦好(愛知大学)、北尾泰幸(愛知大学)、木村友保(名古屋外国語大学)、リーア・ギルナー(文京学院大学)、倉橋洋子(東海学園大学)、小宮富子(岡崎女子大学)、佐藤雄大、塩澤 正(中部大学)、鈴木達也、津田早苗(東海学園大学)、馬場景子(中部大学[非])、藤原康弘(愛知教育大学)、村田泰美(名城大学)、吉川寛(中京大学)

◆新入会員のご紹介

2014年12月から2015年5月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。(敬称略、入会順)

Sakamoto, Fern(愛知県立大学)、Barnes, Ryan(名古屋学院大学)、コツェヴァ桂 乃良(名古屋大学:院生)、林 聖太(金沢工業大学)、中川香子(金沢工業大学)、大東万里絵(金沢工業大学)

◆2015年度 JACET 国際大会ご案内

第54回(2015年度)国際大会は2015年8月29日(土)～8月31日(月)の3日間、鹿児島大学(郡元キャンパス)にて開催されます。

大会テーマ

Intercultural Communicative Competence and English Language Education in a Globalized World

「グローバル時代の異文化間コミュニケーション能力と英語教育」

◆ ニュースレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。

中部支部事務局

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57

名古屋外国語大学佐藤雄大研究室内

E-mail: t-sato@nufs.ac.jp

JACET-Chubu Newsletter No. 34

2015年5月10日発行

発行者: 一般社団法人大学英語教育学会中部支部
大森裕實

編集者: 佐藤雄大 北尾泰幸 藤原康弘